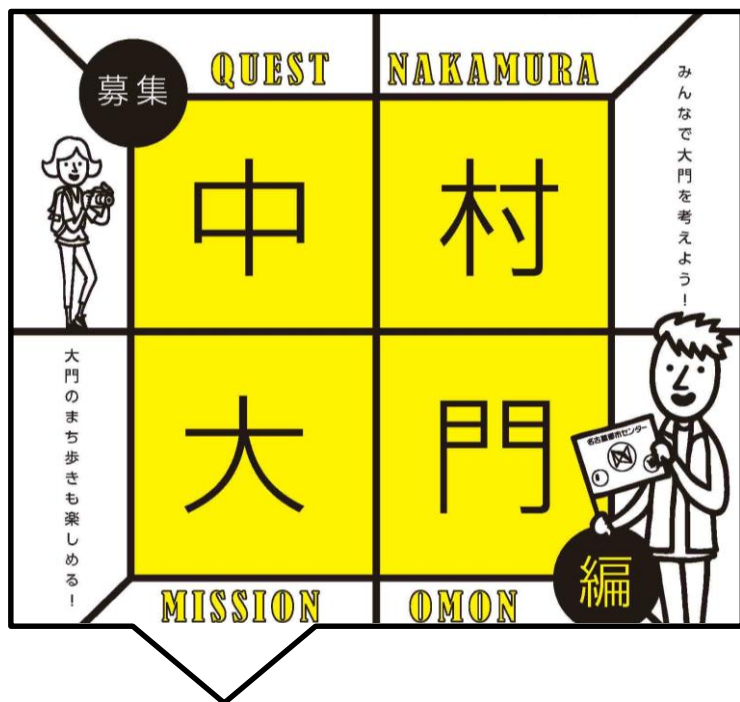


令和元年度 地域のまちづくりびと講座



第3回目

日時: 令和元年10月2日(水)

時間: 18:30~20:30

場所: 名古屋都市センター
13階 ワークスペース

講師: 稲葉 久之さん
(フリーランスファシリテーター)

ゲスト講師: 池田 哲也さん
(一般社団法人地域問題研究所)

ゲスト: 大門まちづくり友の会
加納 栄志さん

まちづくりびと講座の第3回は、「まちづくりの取り組みについて学び、活動の計画づくりをしよう」まちづくりのプロに取り組みについて学び、活動計画書の書き方を学びます。



まちづくりにおける企画づくりの基本(ゲスト講師:池田 哲也さん)

第3回は、「活動の企画の立て方」について、ゲスト講師の一般社団法人地域問題研究所の池田哲也さんから学びました。池田さんからは、自分の想いを具体的なコトバやカタチに描いてみる事が企画で、「誰をどのように幸せにするの?」、「自分がどう幸せになれるか?」が大切だということです。それに対して、「企画書」は自分の想いを周辺に伝えるための「メッセージ」「設計図」であり、「想い・資源・対象・成果」の関係性を分かりやすく伝えるもの。という話から始まりました。

企画書で押さえるべきポイントとして ①現状を知り問題意識を共有する。 ②地域課題を整理し目的・目標を立てる。 ③目的を実現するための活動のアイデアを出し合い整理する。など企画書を作成する順番を学びました。

ステップを踏まえて、やりたいことを重視して無理なく楽しくできる事を一番に考えること。そうでなければ実現できず机上の空論で終わる結果になりかねない。と、これまでに関わってきたまちづくりの活動の事例と、そこに向けた活動の企画の立て方について解説していただき、活動において大切なのは、やりきりではなく、「ふりかえり」も大切であることも学びました。





次回のまち歩きに向けたコンセプトの作成&発表

池田さんからの講義を受けて、次回の大門まち歩きに向けたグループワークをしました。講師の稲葉さんから活動の計画のためのコンセプトづくりで、まずは個人で考えてテーマに沿った内容で自分でやってみたい事や思いついたことを付箋に書き出しました。

その後、大きなワーク用のシートに活動の目的や目標、活動内容について自分達が出した付箋をグループ内で共有して同じような意見は固めていきながら、目標とする対象の人物（誰の為に＝ペルソナ）をイメージしながらやりたい事（何の為に）を話し合いながら固めていきました。

グループごとで、興味の対象と大門エリアの活動でやりたい事と目標を発表しました。他のグループの発表も聞くことにより、次回の大門のまち歩きに対する期待も湧き上がりました。

最後に、もう一度ゲスト講師の池田さんからエールが送られ、活動のメージを考えてからまち歩きをすること。①見て・聞いて・考えて・調べて（事前に）②仮説を持って妄想してくる③無理なく楽しく実践できる企画を！の3つのポイントを聴いて企画の立て方について終了となりました。

グループテーマ（空き店舗を活用したイベントスペースの利用法）

ステップ① テーマに関する大門の「まち」や「ひと」の現状・課題・ニーズ（悩み・困りごと・問題点）

ステップ② 目指すゴール（理想の姿）…誰のために、こんなふうになりたい（してあげたい）、こんな状況をつくりたい

■誰のために（特定の個人を妄想してみましょう）

■なんのために、どこを目指すのか（目的・ゴール）

ステップ③ 実現するために チャレンジしてみたい取組アイデア

■いつ（時間帯・曜日・季節）、どんな場所で、誰と、何を・どのように

■一緒にやりたい、まきこみたい仲間、団体、活動

『キャッチフレーズ』
一言で！活動の特色や楽しさを、魅力的に
わかりやすく伝えるための キーワード
（→コンセプト、プロジェクト名）

